

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173200569		
法人名	有限会社 和		
事業所名	グループホーム和		
所在地	士別市東1条2丁目440番地		
自己評価作成日	令和3年9月10日	評価結果市町村受理日	令和3年10月26日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL https://www.kaigokensaku.mhiw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0173200569-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	合同会社 mocal		
所在地	札幌市中央区北5条西23丁目1-10-501		
訪問調査日	令和3年10月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・その人の人生を尊重し支援致します。 ・その人らしく生活出来る様に支援致します。 ・健康で安心出来る様に支援致します。 ・御家族、地域との関わりを大切に致します。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

士別市のほぼ中心地区に立地するグループホーム和は、開設17年目の二階建て2ユニットの事業所です。地域の事業所として運営推進会議には行政や自治会、家族代表を迎えて率直な意見等を得、開かれた運営につなげています。コロナ禍により、地域行事の参加や家族等との自由な面会は自粛していますが、利用者にとっての和やかで安楽な生活とは何かを求め、常に検討しています。ユニット毎に職員は利用者信頼関係を築き、サービスの中核を成す介護計画は本人の意向を主にニーズを見出し、詳細なアセスメントとモニタリングをすることで現状に即したケアに取り組んでいます。利用者の思いを聞き取り、日常活動の中で草花を植えたり、運動やカラオケを取り入れています。特に大切にしている様々な年中行事は時間をかけて準備し、仮装やダンスなど趣向を凝らし、利用者も巻き込んで楽しいひと時を作り上げています。また、利用者の一番の楽しみでもある食事は、調理職員を配置し、時には生寿司や手作りオードブル、ハンバーガーなども取り入れ、ミキサー食も対応し食の面からも健康を支えています。医療機関との連携や看護職員の配置、重度者に対するきめ細かなケアも特筆できます。職員は事業所理念を共有し、温かな眼差しで利用者のその人らしい当たり前の生活支援にチームで臨んでいます。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求められていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は目につくところに掲げている。職員一人一人が思い思いに、理念に沿った支援となる様に努めている。その人らしく当たり前で生活が出来る様、統一した実践に繋げている。利用者の気持ちを大事に接する事を心掛けている。	長期勤務の職員が多く、理念はサービスの目指す方針として浸透しています。新人職員にも入職時研修で理念の理解を促しています。年に1回の自己評価は、理念に基づいたケアサービスを振り返る機会となっています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染予防対策の中で、実践は難しい。お祭りの、祭事には離れたところから見物したり、選挙演説を聞きに外へ出たりし、地域の一員であり地域と繋がりを持っている事を確認出来る様に支援している。	例年参加の地域のクリスマス会や敬老会、幼稚園児との交流の機会は中止になっています。コロナ禍では、事業所の駐車場で行われた神社祭の神輿見物や看護学生の実習の受け入れなど、現状でできる範囲の活動に努めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	和新聞の発行、推進会議での発表にとどまっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度、運営推進会議を開催し、行政職員や自治会の役員、入居者家族を呼んで取組状況の発表、身体拘束に関する会議も兼ね、意見交換を行っている。	年6回、隣接の系列事業所と合同開催しています。事業所の報告を中心にメンバーから意見や助言を受け、また地域の現状や感染症対策などで情報を共有しています。身体拘束廃止関連や事故報告なども積極的に情報を開示しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進会議を通じて参加された市の職員に日頃の取組状況把握してもらっている。外部評価、自己評価の取組も提出している。	介護保険課や地域包括支援センターの職員とは主に施設長が対応し、事業所の理解を図りながら協働関係を築いています。コロナ禍の現在は休止していますが、月1回介護相談員を迎え、利用者支援の質向上につなげています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	妄想から戸外へ出掛ける行為を繰り返す入居者へは付き添いや、見守りを強化するも病気からの妄想は医師へ相談しているが対応が難しいと感じる。施錠を行う事で命の危険を守ると信じる。その他、職員間で話し合いを実施しケアプランを見直しながら身体拘束とならないケアを理解し実践するよう努めている	身体拘束適正化に向けた指針の下、運営推進会議に廃止委員会を設置し、2ヶ月毎に拘束に関する内容を確認しています。玄関は利用者状況を検討した上で施錠し、不測の事態にも対応できるように年1回捜索訓練を実施しています。また、言葉のトーンについての注意喚起や個別に転倒防止策を講じるなど、抑圧感につながらない支援に取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月は出来なかったが、虐待防止のカンファを行い学ぶ機会としている。日常的に、虐待とならない介護について職員間で話し合い、共有理解する事で注意喚起したり、防止に向けた取組もなっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用している人が居るが、学ぶ機会が無いので、今後学ぶ機会があれば参加できるようにする。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居が決定した家族とは契約日まえにも、十分な説明を行っている。理解納得を得ていると思う。不安や疑問点にも何度でも話を聴き関係性を築くように努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	推進会議に来られる家族ははずかだが、会議の中で意見感想を述べられるので運営にて反映したり反省としている。当ユニットにおいては、会議に参加された家族から「入居してから穏やかな表情になったのが嬉しい」という言葉を頂いて嬉しかった。	家族からは電話や面会の際に意見を聞いています。3ヵ月毎の和新聞と担当職員による毎月の便りで近況や受診状況を報せ、意見表出を促すコメントを書き添えています。現在は玄関先での面会ですが、特に新入居者の家族とは対話を心掛けています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員からの意見を聞いた時は、必要とあればただちに会社に伝えて改善してもらったり、ユニット内で解決できるものは話し合いをしたりと、少しづつであるが、職員にとって働きやすい環境作りに心掛けている。	ミーティングや業務の中で職員の意見を聞き取り、運営上の要望などは会社に上申しています。職員との面談やアンケート調査で得た情報も生かし、業務改善やチーム体制作りに取り組んでいます。利用者が楽しく和やかに過ごせるよう積極的な支援に努力しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者とは職員一人一人が相談しやすい状況を作っている。職員間も穏やかな雰囲気である。こうなるまでに色々あったので、努力の成果もあろうかと思う。一人一人、色々な思いで頑張っている。給与等については会社の方針で、環境とは職員間の問題が一番大きいと思う。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護の経験の無い職員にも親切、丁寧に教えている場面が見られた。研修会に参加機会があれば積極的に参加出来るようにしている。今は、ユニット内の入居者のケアをいかに心地よいものにするかを職員間で意見交換を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	なし		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居を前に、不安な気持ちを傾聴し同調しながらも希望を持てるように楽しい気持ちになれるように関わりを持つようになっている。安心出来る信用出来ると感じられる様に話す。好き嫌いや、したい事を聞き取り、本人の要望に近づく様に努めている。		
----	--	---	--	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族に意見や生活ニーズを聴き、情報共有する事で良好な関係性の構築に繋げている。家族の愚痴や辛かった話、良かった話を傾聴していく中で、気軽に話せる状況、気兼ねなく相談してくれる状況作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	生活に慣れるまでの開始時に必要な物や、支援の仕方について計画作成者と職員は話し合い、家族への説明も行って慎重に対応を進めている。また、ホームで対応の難しくなる事例を紹介し、特養等他施設の特長も説明するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人一人の尊厳や自立を大切に、職員と入居者の信頼関係を築けるように努めている。例えば、出来る事を見極め、お手伝いをお願いしお礼を言うようにし、社会人としてのプライドを尊重したり、一緒に野菜や花を育てて得意分野を披露してもらえ。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月一度のお手紙の他に、管理者から電話やラインで変化のあった事を伝えたり、来設された際には、職員からも積極的に近況を説明する様努めている。家族からも、手紙やラインが楽しみだと感想があった。現状を把握して頂ける事も大切。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族にお願いして、昔の写真を持ってきてもらったところ、入居者皆で観ながら、「これ懐かしいね」と自分の事のように話が盛り上がったので昔話や写真を通じて楽しい会話、過去の思い出、自分とは何かを思い出すきっかけとなっている。	家族をはじめ友人達との自由な面会には制限がありますが、電話を取り次ぐ事で関係が途切れないように努めています。昔の写真を活用し懐かしい人や場、風景などの想起や楽しみの会話を工夫しています。通い慣れた床屋や訪問美容も馴染みの関係を大切にして支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士、合う、合わないがあり時には口喧嘩もされるので仲介したり、ちょっと職員が介入して関係作りをしたりしている。孤立したい人もいる。職員となら話したい人もいる。それぞれの性格を見極めて平穏な生活となるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くなられたらお通夜に行ったり、街で合えば挨拶をするようにしているが、フォローにまでは至らない。入居者の家族の相談支援で精いっぱいというところ。せまい町なので、完全に関係が切れるともいえない。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや意向として多いのは帰宅願望である。思いを傾聴し、今何故ここにいるのか理解できる範囲で安心出来る様に言葉を選んで答えている。一緒に思い悩み、こたえを出すこともある。「今年は緑が見たい」との入居者の意見から草花を育てているところ。	職員間で共有したい利用者の言葉は介護記録に記載し、買い物など具体的な要望は実現できるよう対応しています。言葉で把握が難しい人は、問い掛け後の反応や表情などから推察し、特に重度の人は関わりの中で蓄積してきた情報を基に、その時々安楽であるかを検討しています。	
----	---	--	--	---	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	数人は、入居時に持ってきた馴染みの物を自室に置いて見たり触ったりしている。家族から伺い、生活歴を把握している。本人からの思い出話も引き出すように関わっている。元美容師、酪農家、クラブのママ等		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日のリーダーという役割担当に当たる職員は、特に一人一人に対してより観察見守り関わりを持ち、一日の過ごし方の把握に勤め、記録し、職員間の共有に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人主体の生活を基に意見やアドバイスをプランに反映し、現状に合わせた視点で柔軟な対応が出来る様に作成している。例えば計画にあったとしても、現状(今日の入居者の状態)によっては、対応を改めたり、その必要性をだれもが説明でき、記録に残せる様努め、多様性のある仕事である事を理解する。	日々の記録やミーティングで個々の状況を確認し、3ヵ月毎に詳細なモニタリングを通して介護計画の達成状況を確認しています。本人の意向を基に、医療面の指示も踏まえ現状に即した介護計画原案を作成、職員間で検討し、家族の意向も反映しています。介護計画に加えて日課計画表を作成し、全職員でケアの方針を共有しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人一人の日々のアセスメント記録を記入している。朝、夕の送り時に情報の共有を行い、実践した事とその事によってもたらされた結果を考慮し日々見直しの機会としている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	人を支える仕事の上で柔軟性、多機能化が重要と考える。本人状況は日々変わる事もあり、認知力においては向上は難しく時間との闘いであると感じる。家族との関わりをいかに密に後悔なく続けてあげられるか、コロナ禍特に考え実行している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	共働とは言えないが、地域に根付いた行事の参加や医療、消防訓練等協力を頂いている。コロナ禍難しくなっている。救命救急訓練、看護学生、研修のほとんどが中止となっている現状。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	コロナ禍で、職員が事前採血を持参して本人の状況を説明する受診が増えている。小さい市の為医療への選択肢がほぼ無い。	利用者、家族の希望する医療機関の受診を支援しています。現在市立病院の受診が多く、主に職員が同行支援を行っています。協力医療機関や市立病院と連携し、協力を得ています。特変時は看護職員からは適切な指示を受けています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者に異変がある時看護師(2F常駐)に連絡し、来てもらって相談している。日常的に看護師が巡回してくる事は無いが、骨折したり前日異変があった、等の時は様子を聴きに来てくれている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には添書や既往歴を渡し、口頭でも説明し入居者の情報を提供している。退院時には看護要約をもらい、状況把握をしている。時々病院へ連絡をし、現状を聞いて退院がいつごろになるかを尋ねている。入院後は家族と病院とのやり取りともなるので、家族とも情報共有している		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	契約時の説明時に重度化終末期に向けた方針について家族へ確認、要望を汲み取り、事業所で出来る事の説明を行っている。重度化、終末期に関係者との情報共有を行い、支援への取り組みとなっている。	契約時に重度化や終末期における対応指針の説明とともに同意を得、入院等に関する希望なども事前指定書で確認しています。訪問診療が整っていない地域のため、事業所でできる限りの支援に努めており、本人に寄り添ってチームケアで取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に一度、消防署の協力のもと救急救命訓練を行っている。今年はコロナ禍の為か延期の申し出があった。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に3回、火災、防災訓練を行い、避難が出来る方法を職員が身に付ける様取り組んでいる。地域との協力体制としては、前回の課題だったが推進会議で自治会に向けて発表、お願いした。現状としては協力体制はまだ出来ていない。	年3回昼、夜を想定した火災や地震の避難訓練を実施し、消防署や消防設備会社の講評を次回に生かしています。2階からの速やかで安全な避難誘導についても協議しています。非常食や水、非常災害用備品、暖房機器等を準備しています。	地域との協力体制については運営推進会議の議題に挙げて要請しています。今後も継続して災害時における協力体制の構築に向けた取り組みを期待します。併せて各種災害時マニュアルの整備も期待します。

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室は個室、一人一人のプライバシーを守られている。言葉掛けに関しては、一人一人に向けた言葉掛けを行っているが、全員が聞いても嫌な気持ちにならないような言葉掛けを考慮して行っている。時に、馴れ馴れしくなってしまう気を付けている。	日常ケア場面での気になる言葉について意識啓発を図っています。馴れについても注意しつつ関係性を重視し、人格尊重の生活が保たれるよう優しい対応を心掛けています。希望により選挙投票への外出同行も可能です。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「緑を育てたい」「体操したい」「歩行訓練したい」等いう事の出来る方は言えるからいいが、言葉の出で来なくなった方は何が安楽かを予測するようにしている。「子供のところに帰りたいです」には、じっくりと傾聴して気分転換出来る様にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	ホームのおおまかな流れはあるが、一人一人の生活観に合わせている。「何かしたいことある？」と聞く。「花札」「体操」「歌」が多い。「知らないよ、放っておいて」と言われる方もいて、その人それぞれの生活を送っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日とはいかなくても、入浴後等さっぱりとした気分になれるように支援している。理容師に来てもらって散髪している。現状では3名は自分で服を選ぶ事が出来るので見守りしている。出来ない方には支援しながら季節、気温に合った服装を選んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の状態に合わせた調理をしている、現状ミキサー食4名でミキサーがフル稼働している。味気の無い食事とならないよう、普通食をミキサーにかけ味は一緒となっている。片付けを手伝って下さる入居者と一緒に片付けている。	系列事業所と同一の献立を使用し、利用者それぞれのできる作業を一緒に行っています。調理職員を配置し、利用者の嗜好やリクエストを反映して誕生会や季節の行事食も工夫し、美味しく楽しみの食事を提供しています。嚥下状態に応じた形態で、重度の人も皆と同じものが食べられるよう配慮しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	内科血液検査結果、ほぼ全員が良好で「何を食べているの」と聞かれた事あり。特にミキサー食の方。水分補給については暑い時期は、夜中に開眼された方には水分を勧める等で脱水予防に努めた。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一日三度が望ましいが、朝と寝前には必ず行えるように支援している。一人一人の口腔状態に合ったケアを行っている。ブラッシングに拒否のある方もうがい薬を使用する事で口臭も無くなった。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	現状綿パンツ2名、リハビリパンツ4名、オムツ3名であり、そのうち自力で排泄の一連の動作が出来る方は4名、他介助となっている。排泄のパターンは日々の記録から職員は把握している。出来るだけトイレで排泄出来る期間が長く保つ様努めている。	利用者は自室のトイレを使用することができ、本人ペースの排泄や羞恥心への配慮につながっています。衛生用品の変更や安全な介助法は心身状況に応じて随時検討しています。トイレでの自然な排泄や布下着用状態ができる限り継続できるように努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の記録から、排便状況を把握。状況に合わせて乳酸飲料や便秘薬の使用を検討している。また、便秘体操や腹部マッサージ、日々の運動を増やす、水分確保に努めている。また、時間帯が朝方の多忙時に重なり、コントロールする事あり。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	曜日や日時は、職員の人数から決める事が出来ず急な受診等があれば入浴延期もあるが、出来る限り無理なく安楽な入浴となるよう心掛けている。出来ない時も陰部洗浄や着替えをせしめらう等、保清を保てるよう努めている。	週2~3回午前、午後の入浴であり、希望により仲の良い者同士の入浴や同性介助にも対応できる体制です。無理なく気持ち良く清潔が保持できるよう二人介助でシャワー浴等も支援しています。数種の入浴剤を用意し、お喋りや歌が飛び交う時間になっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個室にて、眠い時には思い思いの時間に休めるようにしている。一人でぼーっとしたい方もあり、一人一人の生活習慣に応じて安心出来る様に支援している。又、介護度が高くほほ寝たきりの方の部屋は、適度に訪室し寂しくない様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師への確認や薬辞典やネットで調べ、薬の目的や副作用について理解し、事故がない様Wチェック以上のチェック機能を持ち安心した内服支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の希望で、プランターの野菜花作りを一緒に行ったり、季節の行事を行い気分転換を行える様にした。ドライブ、花札、レクリエーションで笑顔が引き出せる様にと努めている。介護度高い方は、好きな味だと笑うので、美味しく工夫している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	酷暑で外出が出来かねる場面もあったが、庭で草花をいじるだけでも気分転換になるよと言われた。先日はコスモスロードをドライブし、感動されたりと楽しい思い出を作れるよう努めている。すぐ忘れるにしても、全ての方の希望に沿うのは難しいと思うが家族の協力も仰ぎながら努力している。	地域行事は中止になっていますが、感染症対策を取りつつ庭先で花々を楽しんだり、家族の協力も得ながら、買い物やドライブに出掛けています。室内装飾を工夫し、皆で楽しめる季節行事や様々な運動を取り入れ、コロナ禍での機能低下予防や気分転換の機会を作っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブルの一因になった事が多々あり、現在は職員が金庫でお小遣いを保管。このことに関しては、入居者も納得され「かえて安心ね」と言われる。お買い物に同行した際、一部の方が各自のお財布から本人が払うように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コロナ禍、合う事一緒に出掛ける機会が減り電話が来る事が増え取り次いでいる。また、本人がかきたい希望があると掛けられるように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた歌詞や飾り物を取り付け、季節が変わった事を感じられるようにと努めている。次亜塩素酸水の加湿器を使用し感染症予防対策を取っている。温度、湿度の管理をし入居者の体調に考慮している。居心地良い配置でソファテレビを置き、一人一人の居場所となっている。	明るく開放感ある共用空間は、食堂とリビングスペースが確保され、家庭的な調度類や季節感のある装飾、利用者と一緒に制作した作品が掲示されています。椅子には座位を保てるようクッションや足置きがあり、ゆったりと快適に過ごせる環境を作っています。温・湿度管理や感染症対策が施され、雑誌やかるた、多様なゲーム用品も用意しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者の人間関係に配慮した、ソファの並びとし会話したり、居眠りしたり思い思いに過ごせるように支援している。寂しくてリビングに居る事を好む方が座った切りにならないよう、適度に体操を取り入れたり、足を上げる小椅子を用意して支援している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の使い慣れた物を持参され、心地よく過ごせるように家族が工夫して家具を配置してくれている。身体能力や介護度の変化で家具の配置換え等し、いつまでも居心地よく過ごせるように支援している。	トイレや収納、流し台やミニ冷蔵庫など、自立生活に十分な設備が揃っています。自宅からタンスや仏壇、テレビや人形等が持ち込まれています。本人の状態を見極め、動線に応じたレイアウトや床敷寝具に変更などで、安全に心地よく過ごせる居室を整えています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下や居室トイレ周囲は手摺りが取り付けられ、安全に移動できるようにしている。自分の居室がわかるように入口に本人の写真や名前を貼ったり、各部屋にカレンダーを配置し日時を確認出来るようにしている。		